

会議報告書

会議名	令和4年度第2回白井市郷土資料館運営協議会会議		
場所	白井市文化センター2階 かおりホール (中ホール)	日時	令和5年2月24日(金) 15:30~16:45
報告者	郷土・プラネタリウム班	職・氏名	学芸員 山田 喜義
出席者	(委員) 倉田委員(会長) 古里委員(副会長)・横山委員・森山委員・阿部委員・杉原委員(7名) 1名欠席		
	(事務局) 井上教育長・高花館長(センター長) 生涯学習課 戸谷主査 郷土資料館 山田学芸員 石戸学芸員	傍聴者	2名

1. 開 会

2. あいさつ

○会長より

これまでコロナの影響で運営面で様々な苦労があったと思う。今年に入ってからにはコロナ感染症もだいぶ落ち着いたので、今年からは従来通りの活動をしていってほしい。

3. 議題

白井市郷土資料館設置管理条例施行規則第10条により、会長が会議の議長となる

(1) 令和4年度事業実施状況報告について

資料に基づき事務局(郷土資料館)より説明を行う
協議結果…承認される

[主な質疑応答]

委員：寄贈資料一覧にある「新生ケンヨー吸入器」とは何か。

事務局：薬品等を混ぜた蒸気を用いた美顔器のようなものである。市内の方からいただいたもので薬品以外は完璧な状態で残っていたことから受け入れをした。

委員：いつ頃つくられたものか。

事務局：美顔器というより、衛生器具となる。戦後に国民が喘息などで苦しんだ時期があり、医療が今ほど発達していない時期に流行ったものと考えられる。

委員：相談等の問合せが5件とあるが、どのような内容であったか。

事務局：様々なものがあつたが、牧についての質問や企画展に関する質問、展示物に関する質問などが主なものである。

委員：神々廻区から寄託を受けている「ガッタン」とはどのようなものか。

事務局：昔、消防団などが夜回りをしていた際に肩から掛けていた板のことである。板には棒状の鉄が4つか5つついていて、歩くとガッタンガッタンと音が鳴ることからガッタンと言った。こちらは肩掛けカバンのようになっており、音が鳴ったら夜警にきたということがわかるというものとして理解している。

委員：市民学芸スタッフの活動について、以前手引書を作るという話があつたと思うが、その

後はどうなっているか。

また、リクエストとして今年度の成果や課題を文面にさせていただくと、どういうことがあったのかわかりやすいので今後検討していただきたい。それに合わせて、企画展ではどのような声があったか、こういう点はもっとよく調べた方がよいのではないかなどの課題があれば教えていただきたい。

事務局：手引書に関しては完成している。ただ、今後修補の映像を撮影していく予定であるので、それと合わせて使えるように改良していく予定である。

リクエストについて、例えば年度内で修補を行った一覧はあるので、こちらを今後資料としてつけるようにしようと思う。

企画展の課題等については、東葛印旛大師に関係する方々であったり、そういうことに興味がないといった方も見学していた。改善点として、文字が小さいなどの意見を何件か受けている。また、今回の企画展の内容が若い方向けというよりは、年齢層がかなり高い方向けとなっていたため、今後どのような展示を行っていくのかは課題と考えている。

委員：若い人向けというと、先日ホームページを見たら、「縁結び大学」に紹介されていた。そういうものを受けてどのように展示をしていくのか、どのように活用すれば入館者が来てくれるのかというのを運営協議会資料でもわかりやすく伝えていっていただきたい。次回の会議の時にでも展示替えによる成果と、次につながる課題がすぐに分かる形で資料として出してもらえればと思う。

委員：「かおりだより」の配布先はどのあたりに行っているか。

事務局：現在白井市内の各公民館と駅、今年度からは県内の博物館等に送ることとしている。その他は郷土資料館での配布となる。

委員：学校には配っていないのか。

事務局：市内小学校に配布している。

委員：かおりだよりにある一言豆知識に「香取の海」という表現があり、別に間違いではないのだがこれが正しいのかどうかという点で議論となっている。茨城県側の人たちは「奥鬼怒湾」などと呼んだりもしているため、もっとスケールとしては大きな話なのではないか。「香取の海」とすると千葉県の一部になり、ある程度この呼び方は意識して書いた方がよいのではないかと思う。

事務局：「香取の海」に関して、これは過去にそういうものがあつたわけではなく、便宜上そう呼んでいるだけであつて古代から呼ばれていたわけではない。

委員：「香取の海」の名称に関しては、中近世を専門にしている方の中でもまとまりがなく、いつの間にか全体を指すイメージで言われるようになってきている。千葉県史による影響が大きいと思うが、実際はかつての印旛・手賀周辺の海域をどう呼んだら良いのかということについては、今もって決まっていない。厄介であるのは、印旛・手賀周辺をどのように各時代を位置づけて、どのように名称を決めていくのかということをしつかりと決めていないということだろう。

事務局：この問題は100年以上続いている問題である。古代の和歌に香取の大海というのが出てくるので、それがこの「香取の海」ではないかと思つた香取出身の香取何某という人が最初に起こした問題である。しかし、古代においてあそこはただ単に内海と言っている。当時は大海と内海という言葉しかなく、大海は外洋で内海は今の「香取の海」や東京湾のことを言っていた。それを理解できていないため、後世においても繰り返しこの和歌を出してきて誤解をしてしまう。常陸の国風土記では内海の一部を何々の海というように部分的な海域名称としていた。手賀水海もその一つにすぎない。では全体を総称するときに単なる内海では区別がつかないため、現代的な仮称として「香取の海」が用いられた。

委員：手下水海は相馬御厨の南端だったかと思う。そうなる少なくとも平安ぐらいには使っていたかと思うが、手下水海と呼ぶことはないのか。

事務局：手下水海はあくまでも内海の中の部分的な名称を指しているものなので全体は表現できない。

委員：少なくとも、「香取の海」を使う時には慎重に対応したほうが良いかもしれない。個人的には使わないのだが、「香取の海」を使用しない場合、何と呼称するのかという問題も出てくるので非常に悩ましい。

事務局：考古学、中でも古代を専門にしている人はほとんど「香取の海」としていると思う。基本的にはこの近辺の人たちも「香取の海」を使うことが多いのではないかと。ただ、縄文時代のこのあたりの研究をしている人は、大体古鬼怒湾を使うことが多いと思う。しかし、縄文時代の研究者のイメージとしては、縄文海進で古鬼怒湾ができて縄文海進が終わると古鬼怒湾は消滅するというイメージで語ることが多く、実際は、古代中世まで続くのだが、そういうイメージでは語っていないところがあって、非常に危うい概念かと思っている。常陸国風土記だと印旛鳥見の丘から東の方を見ると海が広がっていると。ここではただの海である。なので全体についての名称は常陸国風土記の編纂時点では少なくともついてなかったのは確かだと思っている。この辺りの水域の話は縄文の研究者は古鬼怒湾で話しているのは確かだが、古鬼怒湾を使ってしまうと誤解が多いのかなというイメージで個人的には香取の海を使うことが多い。

～ 以上で令和4年度事業実施状況報告についての質疑終了 ～

(2) 令和5年度事業計画(案)について

資料に基づき事務局(郷土資料館)より説明

協議結果…承認される

[主な質疑応答]

委員：企画展の準備について現段階でどのようなテーマを考えているのか。次に今年度は古文書講座の中級編を行っていたようだが、来年度に行わないのは何故か。それに関して、講座の再受講は可能なのか。3つ目に市民学芸スタッフの修補活動に関する動画撮影について、初心者が成長する姿を撮影するということであつたが、技術の伝達のための動画を撮影したほうが良いのではないかと。

事務局：企画展については現段階でこれといったテーマは決まっていない。来年度の人員体制がわからない状況で最初にテーマだけ決めてしまうと、人員が入れ替わったときにそこからスタートということになってしまうため、来年度の職員が決まってから始めたいと考えている。

古文書講座については入門編、初級編、今回は中級編とあるが、中級編の難易度設定が難しく、今年度試しに開催してみたというものである。来年度に関してはこのような難易度設定を一度見直し、代わりに初級編を4回ではなく5回開催することにした。講座の再受講という、一度受けた方がもう一度受けるということだと思うが、それは全く問題ないものとして受け入れている。

古文書修補の映像作成については技術の伝承の面からも、ちょうど来年度からスタッフに加わる方々が一番初歩の形となるので、その段階からどういう風にやっていくのかを撮影する計画である。開披不能な古文書を披く動画を作成しても良いのだが、それでは難易度が高くなってしまいうまくリンクするような形で行っていきたいと考えている。もちろん難しい技術も撮影していくが、メインとしてはそう

というような形で編集を行っていきたいと考えている。

委員：教育番組などで初心者がどういう風にステップアップしていくのかを見るものがあるのでそういうものを念頭にしているのだと理解する。それに合わせて他の企画展などの研究を進めていくと思うので、そのバランスもよろしく願います。

委員：古文書修補映像だが、指導者である横山さんの映像は撮り終わっているのか。

事務局：修補を行っている映像等を本人から提供いただき、見られる状況にしてある。

委員：体験教室の人数が昨年より減っているがこれは何故か。

事務局：ミスである。大福帳づくりと編布づくりは全2回で各回6人定員となる。

委員：小川瓦木ポスターカード価格が200円とあるがこれはセット価格か。

事務局：3枚セットである。

委員：かなり前につくられたものであると思うが、どれくらい残っているのか。

事務局：在庫の確認ができていないため、どれくらい残っているかは現時点で不明である。

委員：相当古くなっていると思われるが、今後無償で配布するという考えはないのか。売るとするのは厳しくなっていると思うが。

事務局：検討する。

委員：ぜひ検討していただき、大量にあるようなら来館者にサービスで配るなどといった方法を考えた方が良く思う。また、教育委員会のことではあるが、かなり前に町史も出されている。これも5,000円で売られているがほとんど売れていないようだが。

事務局：販売状況もなかなか難しいので、一度そうしたことができないか検討を行ったことがあるが、数年に1冊売れていたりするので、その時にどう説明するのか難しい。どうしてそれが値引きできて定価で買った人との差をどう説明するのかといったことから、すぐにはできないというようなことがあった。ただ、他市町村で値引きをして売った事例はあったと記憶している。

委員：最近は美術館などのミュージアムショップでもバーゲンセールを行っている。図録などもダビングして売っている場合があるので、そのあたりも考えた方が良くはないかと思う。

～以上で、令和5年度事業計画(案)についての質疑終了～

4. その他

・文化センターのあり方検討について

先月、あり方検討委員会の第9回会議が開催され、提言書の案がまとまった。今後、委員による最終確認を経て、提言書が教育委員会宛に提出される予定である。そのため、提言書の内容については本日は報告せず、提出された後、内容及び今後のスケジュール等について、改めて(運営)協議会で報告させたいと思う。

・追加資料について

本日お配りした中に追加した資料があるが、かおりだよりを市のHPにアップしたものである。今後はこのようなイメージで市のHPにも追加していき、郷土資料館のHPからも飛べるようにしていきたいと考えているのでよろしく願います。

事務局：その他なければ本日の会議はこれで終了させていただきたいと思う。(終)